

## ■ 4-1. 報告〈事業創発・事業支援〉

□ 受託事業：「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」(学び直し塾)

### 地域活性化プランナーの学び直し教育推進プログラム

滋賀大学 地域連携センター 特任准教授 阿部 圭宏

#### 1. はじめに

本学が平成18年度から県内自治体と「淡海地域政策フォーラム」を組織し、分権時代にふさわしい行政職員の学び直し塾を開始していたことをベースに、文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に応募し採択され、平成19年度から「地域活性化プランナー学び直し推進プログラム」として、3年間取り組むこととなった。

本プログラムの狙いと目的を、塾長の山崎教授は、「地方分権社会の到来によって、地域のことは自ら決め実行し責任をとる、地域自立の態勢づくりが喫緊の課題である。地域は生活に身近であることから、その態勢とは行政と市民が協働して共に治める地域ガバナンスだと考える。本プログラムは、地域ガバナンスの中核として期待される行政職員、NPO職員、社会的市民の地域政策の立案能力向上を目的として、実践的な教育研修を行うものである」とまとめている。

本稿では、平成20年度の本プログラムの実施状況について報告する。

#### 2. 実施プログラムの特徴

本プログラムの構造は、次の3点にまとめられる。

##### ① 講義とワークショップの組み合わせ

政策科学の最新理論を講義形式で提供した後、3つのグループに分かれ、具体的なテーマでのワークショップを実施し、テーマに基づく政策案を立案する。立案政策案の実現能力向上のためのプレゼンテーションを行い、最終修正を行って、公開のシンポジウムで報告し、多くの人々と意見交換する。

なお、平成20年度のワークショップのテーマは、「協働」・「ニューパブリックマネジメント」・「地域ガバナンス(観光政策)」を設定するとともに、現場感覚を体感するための現地視察研修を取り入れた。

##### ② 認定委員会による資格認定

「地域活性化プランナー認定委員会」を設け、本プログラム修了者に対し「地域活性化プランナー」として資格認定(履修証明)を行う。

##### ③ 外部評価

「外部評価委員会」を設けて、プログラムの円滑な運営、改善などが常時行われる体制をとる。

#### 3. 平成20年度実施成果

##### 【1】平成20年度実施プログラム

表1のとおり

##### 【2】担当教員

山崎 一真 〈滋賀大学 産業共同研究センター 教授／地域連携センター センター長／学び直し塾 塾長〉

阿部 圭宏 〈滋賀大学 地域連携センター 特任准教授／学び直し塾 副塾長〉

北村 裕明 〈滋賀大学 経済学部 教授〉

石井 良一 〈滋賀大学 地域連携センター 特任教授〉

宗野 隆俊 〈滋賀大学 経済学部 准教授〉

北詰 恵一 〈関西大学 環境都市工学部 准教授／滋賀大学 産業共同研究センター 客員研究員〉

井口 貢 〈同志社大学 政策学部 教授／滋賀大学 産業共同研究センター 客員研究員〉

### 【3】受講生及び地域活性化プランナーの認定

包括協定締結自治体などへの参加の呼びかけ、NPO等への公募を行った結果、受講生は27名(自治体職員19名、NPOスタッフ4名、社会的市民4人)であった。NPOスタッフ等の参加により、ワークショップでの議論が深まったといえる。

このうち、26名を地域活性化プランナーに認定した。

## 4. 外部評価結果及び受講生からの評価

### 【1】外部評価結果

外部評価委員をお願いした学識経験者には、実際、成果発表の場であるシンポジウム('08年2月28日開催)へ参加していただくとともに、外部評価委員会('08年3月11日開催)で評価をいただいた。委員会には、講師陣も加わり評価を受けた。全体として、限られた時間の中で成果があがっており、受講生から出された政策提言やプレゼンテーションは、1年目と比較してレベルが向上しているという評価を得た。

また、21年度に向け、3年間の総括が必要であり、全国的に使えるプログラムとして使ってもらえるようなモデルをめざすとともに、プログラムの成果を本にまとめるなど、対外的に発表できるようにしたいという総括がされた。あわせて、受講生のネットワークづくりや修了生の本プログラムへの関わり的重要性が認識された。

### 【2】受講生からの評価

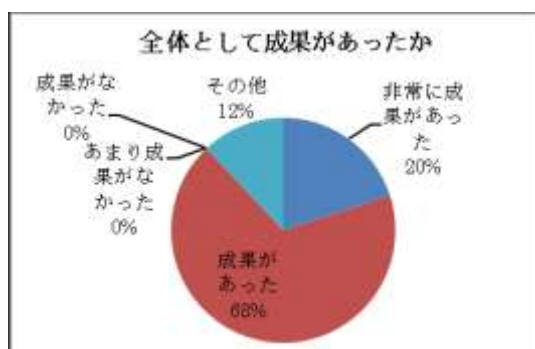
プログラム第13回終了後に、受講生(常時出席の26名)を対象に、本プログラムについてのアンケートを実施した。授業の回数、難易度、課題やレポート等の作業量、本年度初めて実施した現地視察研修への評価、成果等について率直な意見が寄せられた。

具体的には、

- ・多様な見方で物事を考える重要性を学ぶことができた
- ・知識を得て、自分なりの案を作り上げていくことが体験できてよかった
- ・行政に携わる者として、立案する政策の根拠や裏付けの重要性を実感した

など、前向きな意見が多数あり、特にグループワークに対する評価が高かった。

成果については下記グラフのように、9割近くの受講生が「成果があった」と評価している。



[ 授業風景 ]

【表1 平成20年度実施プログラム】

	日程	講義内容	担当	場所
第1回	2008年 6/26	開校式(オリエンテーション)	全員	彦根キャッスルホテル
第2回	7/3	政策科学のアプローチ <理論編>	山崎	大津
第3回	7/17	政策分析の手法(1) 公共経済と統計情報 <理論編>	北詰	大津
第4回	8/7	政策分析の手法(2) 政策過程分析と政策提言 <理論編>	宗野・阿部	大津
第5回	8/21	分権時代における地域政策の課題 <理論編>	北村	大津
第6回	9/18	中間レポート発表	全員	大津
第7回	9/26~27	視察研修会 (NPO視察、市町講演会、宿泊交流会)	全員	米原市内
第8回	10/2	政策分析-実践への応用 <理論編・実践編>	全員	彦根
		実践課題1) 協働	北村・宗野	
		実践課題2) ニューパブリックマネジメント 実践課題3) 地域ガバナンス「観光政策」	石井・阿部 山崎・井口	
第9回	10/16	政策分析・事例研究1 <実践編>	全員	彦根
第10回	10/30	政策分析・事例研究2 <実践編>	全員	彦根
第11回	11/13	政策分析・事例研究3 <実践編>	全員	彦根
第12回	11/27	政策分析・事例研究4 <実践編>	全員	彦根
第13回	12/11	政策提言案のプレゼンテーション <理論編・実践編>	全員	大津
第14回	2009年 2/28	修了式・シンポジウム	全員	安土 文芸セミナリヨホール

## [講義会場]

彦根：大学サテライト・プラザ彦根（JR彦根駅前 平和堂アル・プラザ彦根6F）

大津：滋賀大学 大津サテライトプラザ（JR大津駅前 平和堂アル・プラザ大津5F）